



チベット通信

༄༅། ཉི་འོང་སྐུ་ཚབ་དོན་གཙོད་ཁང་གི་གསར་འཕྲིན།

2022年 冬号 WINTER ISSUE



ダライ・ラマ法王日本代表部事務所（チベットハウス・ジャパン）

JAPANESE TIBETAN BULLETIN

JAPANESE TIBETAN BULLETIN

2022年 チベット通信 冬号 WINTER ISSUE

Contents

日本・国際チベットニュース

- ペンパ・ツェリン主席大臣が日本の国会議員に向け講演 01
- 主席大臣、日本でチベット・ウイグル・南モンゴルに関するセミナーに出席 04
- 臓器狩りに関する公聴会にアリヤ代表が出席一衆議院議員会館 07
- アリヤ代表、日本外国特派員協会の記者会見に登壇 10

チベット・ニュース

- 中国：チベットでの大量DNA収集の新たな証拠 12
- 起業家で慈善家のチベット人に対し、不当に懲役18年の刑を宣告 13
- 中国当局、公共の場で折ったチベット人5人を拷問、1人を死亡させた疑い 15
- カム・カルゼで2人のチベット人が警察による拷問で死亡 16

ダライラマ法王ご法話

- 『根本中論頌』 法話会 2日目2022年11月26日 18

イベント・お知らせ

- チベットハウス・ジャパン、2ヶ月間のチベット語講座を終了 26
- チベット支援とご寄付について 28
- チベットハウス会員制度・会員募集のご案内 29

チベット通信 2022年冬号

2022年12月30日発行

発行人：ダライ・ラマ法王日本代表部事務所（チベットハウス・ジャパン）

〒161-0031 東京都新宿区西落合3-26-1

電話：03-5988-3576

代表：アリヤ・ツェワン・ギャルポ（博士）

事務局長：タシ・ヤンゾム 経理担当：ツェラ

秘書課／Office Assistant：長谷川直子／ボランティア・スタッフ：鈴木サチ

ペンパ・ツェリン主席大臣が日本の国会議員に向け講演 「中国政府の弾圧によりゆっくりと死に向かうチベットの文化」

[2022年9月21日 日本、東京 スタッフ・リポーター]



衆議院議員会館にて、日本チベット国会議員連盟総会で講演する
ペンパ・ツェリン主席大臣。

日本、東京：9月21日、ペンパ・ツェリン主席大臣は、日本への公式訪問を開始し、国会議事堂前の衆議院議員会館で行われた日本チベット国会議員連盟総会で講演した。

主席大臣はチベットの深刻な状況について申し立て、チベット文化の現状について、「中国政府の抑圧的な政策のもとでゆっくりと死に向かっている」と懸念を表明した。

チベットが直面している最大の脅威として、チベットの3歳以上の子どもたちの80%が家族や文化的ルーツから強制的に引き離され、中国政府が運営している寄宿学校に収容されていることについて述べた。

「チベットの子供たちは、チベット語の代わりに中国語を学ぶことを強制され、彼らの心を変えることを目的としたプロパガンダを施され、15年から20年後にはチベット人がいなくなってしまうように仕向けられています」と主席大臣は主張した。

さらに、チベットで起きている文化的大量虐殺、チベット人の文化的・言語



衆議院議員会館にて、日本チベット国会議員連盟総会

的アイデンティティを一掃する政策が猛烈に推進されていることについて、日本の国会議員に説明した。

彼は、日本の国会議員や政府からUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）に対し影響力を及ぼし、「新疆報告書」のような「チベット報告書」を提出するように働きかけるよう訴えた。

主席大臣はまた、深刻な懸念として、チベットで加速する気候変動について述べ、18億人のアジア人がチベットを源とする10の大河に淡水を依存していることから、チベットの環境問題はチベット人だけの問題ではなく、アジア亜大陸全体の深刻な問題であることを強調した。

日本政府に対し、チベットの環境の重要性、チベットの気候変動がアジアや世界全体に与える悪影響について、COP（国連気候変動枠組条約締約国会議）などの国際的な組織や二国間・多国間会議で明示するよう訴えた。

主席大臣は、日本の国会議員に対し、ダラムサラに来ていただきダライ・ラマ法王と謁見されるようにと丁重に招待申し上げた。また亡命後、極めて困難な状況下において1年以内に民主化を導入した、ダライ・ラマ法王の並外れたリーダーシップについて語った。

「現在、私たちチベット社会における民主主義制度は、完全に機能しています」と述べ、日本がQUADやAUKUSといった同盟を通じて、民主主義、自由、法の支配といった共通の価値を推進するために、米国やインドといった民主主義国家



ペンパ・ツェリン主席大臣を歓迎し、挨拶する日本チベット国会議員連盟・
下村博文会長。(写真：T H J)

との関係性を深めていることを称賛した。

さらに、ODAを通じて、日本政府が継続的に亡命チベット人の福祉を支援することに心から期待を寄せていると述べた。

主席大臣はまた、過去何十年にもわたってチベットの大義を支援してきたインド政府への特別な謝意を表明した。

ペンパ・ツェリン主席大臣は、日本での初の公式スピーチを終え、国際社会に対し、ミハイル・フォン・ウォルト・フォン・ブラーグ氏の『チベット・ブリーフ20/20』で詳細に述べられているチベットの史実を擁護するよう促した。

「米国議会は、ミハイル・フォン・ウォルト・フォン・ブラーグ氏の著作『チベット・ブリーフ20/20』に記されたチベットの歴史的事実を基に、チベットの歴史的地位に関して専門家の証言を聴取し、チベットの紛争は未解決であるとする法案を可決させました。このような歴史的な発見がありながらも、私たちはダライ・ラマ法王の提唱される『中道のアプローチ』、すなわちチベット国内の現状を考慮した現実的な取り組みに尽力し続けています」と首席大臣は伝えた。

また、安倍晋三元首相の逝去について、主席大臣は哀悼の意を表して祈りを捧げ、チベットの大義に対する彼の長年の支援を讃える決議が、最近亡命チベット議会で可決したことを伝えた。

国家基本問題研究所理事長の櫻井よしこ氏は、挨拶の中で、チベット、ウイグル、モンゴルの文化、言語、宗教を意図的に根絶しようとする中国の政策は許し

難いと述べ、日本がチベットを継続的に支援することを約束した。

日本チベット国会議員連盟の下村博文会長は、チベット問題は私たちの等しい関心事であると述べ、チベットの文化的、言語的、宗教的アイデンティティの保護のための闘争を増強するために必要なことを、日本が行っていくよう提案した。

ペンパ・ツェリン主席大臣の衆議院議員会館訪問には、ダライ・ラマ法王日本・東アジア代表部事務所の代表・アリヤ・ツェワン・ギェルポ博士が同行した。

主席大臣は当日の午前中に日本の空港に到着し、在日チベット人コミュニティのメンバーらの歓迎を受けた。
(翻訳：S.Suzuki)

主席大臣、日本でチベット・ウイグル・南モンゴルに関するセミナーに出席

[2022年9月23日 スタッフ・リポーター]

東京：2022年9月23日、中央チベット政権のペンパ・ツェリン主席大臣は、チベット・ウイグル・南モンゴルに関するセミナーに出席した。中国の圧政下におけるチベット人、ウイグル人、南モンゴル人のアイデンティティ根絶をやめさせ



チベット・ウイグル・南モンゴルセミナー「中国共産党の占領地：共通基盤の構築」に出席する
ペンパ・ツェリン主席大臣

るための国際的支援を訴えるための共通基盤を構築するべく、「中国共産党の占領地：共通基盤の構築」と題したこのセミナーは、チベットハウス・ジャパンとセーブ・チベット・ネットワークが共催し、主要パネリストとしてウイグル、南モンゴルの代表者も登壇した。

主席大臣は、現在のチベットが直面している最大の脅威は、中国政府によるチベット語の絶滅政策であると述べた。「チベット人の子どもたちは3歳から親や文化基盤から引き離されて寄宿学校に入れられ、その結果、チベット語を話せなくされてしまう」と述べた。

主席大臣はまた、「アジアでは18億人がチベットを源流とする世界の10大河川の淡水に依存して生きており、チベット高原の保護は極めて重要だ」と指摘した。中国の揚子江が干上がっていることに注目し、チベットの気候変動は近隣地域にも深刻な影響を与えるだろうと述べた。

中国政府はチベット人に対する抑圧と監視を強化し、2016年から2022年にかけて100万人以上のチベット人から本人の同意を得ずにDNAを採取していたことについても、主席大臣は言及した。

新型コロナウイルスに関する中国政府の失策により、チベット人が非常に苦しめられていることにも触れた。首都ラサだけでも20～30%以上のチベット人が非常に体調の悪い状態で強制的に市外に移され、適切な食料と医薬品もなく、病人も含めて一緒に部屋に寝かされていると述べた。

主席大臣は、1949年に中国政府に侵略される以前のチベットは独立国家であったことを改めて強調した。著名なオランダ人学者ミハイル・フォン・ウォルト・フォン・プラーグ氏と中国人教授・劉漢城氏の著書においても、古代からチベットが中国の一部であったことはないという歴史的事実が立証されていると述べた。各国政府が中国政府の意向に沿って「チベットは中国の一部」と発言することは、国際法に反しているのである。

主席大臣は、日本政府に対して、不当な扱いを受けているチベット人、ウイグル人、南モンゴル人の苦情に対処するために、「中国に関する特別調整官」を任命するよう要請した。

主席大臣は、日本を含む国際社会は、自由、民主主義、法治を守るために中国政府に立ち向かわなければならないと述べた。「中国は外見上、経済的、軍事的には強く見えるが、道徳的な力を喪失しており、そのために内情は非常に不安定である」と付け加えた。

日本ウイグル協会会長のウダ・ケリム氏は、中国政府が行っているウイグルに対する深刻な人権侵害に重大な懸念を表明し、UNHCR（国連難民高等弁務官事



セミナーに参加した主席大臣とパネリスト、日本の国会議員ら各位

務所)が最近の報告書において「人道に対する犯罪」であると指摘されていることに言及した。ウイグルにおける文化的虐殺を終わらせるために、国際社会は中国に対して圧力をかけるように、と呼びかけた。

南モンゴルクリルタイのオルホノド・ダイチン常任副会長は、「南モンゴルへの中国人の大量移動により、モンゴル人は圧倒され、自身の土地において取るに足らない少数派にされてしまった」と述べた。

セミナーには、日本チベット国会議員連盟の下村博文会長、日本ウイグル国会議員連盟の三ツ林裕巳事務局長、国家基本問題研究所の櫻井よしこ理事長、セーブ・チベット・ネットワークの牧野聖修会長、ダライラマ法王日本・東アジア代表部事務所の代表・アリヤ・ツェワン・ギャルポ博士らが出席した。

セミナー終了後、主席大臣は記者会見を受け、中央チベット政権は、中国政府との対話を通じてチベット問題を解決する「中道のアプローチ」を堅持していると述べた。——CTA内閣事務局による報告

(翻訳：S.Suzuki)

臓器狩りに関する公聴会にアリヤ代表が出席 ——衆議院議員会館

[2022年10月25日 スタッフ・リポーター]



講演を行うアリヤ・ツェワン・ギャルポ代表（写真：T H J）

東京 — ダライ・ラマ法王日本・東アジア代表部事務所のアリヤ・ツェワン・ギャルポ代表は、今日、衆議院議員会館会議室において、カナダ在住の国際人権弁護士デービッド・マクス氏による「中国および中国占領地における血まみれの臓器狩り」の公聴会に出席し、講演を行った。



デービッド・マクス氏、日本人議員、講演者、主催者（写真：T H J）



アリヤ代表と市議会議員の小坪慎也氏、丸山治章氏（写真：T H J）

『Bloody Harvest: The Killing of Falun Gong for Their Organs（日本語仮題：血まみれの収穫—大法輪功の臓器殺害）』の共著者で、2010年のノーベル平和賞候補にも挙げられたデービッド・マタス氏は、中国共産党政権が当初は法輪功学習者を、後にウイグル族やその他の少数民族に行っている臓器狩りについて発表を行い、国際社会がこうした独裁政権による凶悪犯罪に沈黙し続ければ、反体制派や“良心の囚人”からの臓器強制摘出は続くと警鐘を鳴らした。

※“良心の囚人”とは、暴力を用いていないにもかかわらず、信念や信仰、人種、発言内容、あるいは性的指向を理由として囚われている人びと

本公聴会とトークイベントは、中国政府による臓器狩り犯罪の阻止と啓発に取り組むN G O「中国における臓器移植を考える会（Stop Medical Genocide）」と日本ウイグル協会が主催した。公聴会には約10名の日本の国会議員および地方議員が参加し、懸念を表明。共産党政権による人道に対する重大な犯罪を非難した。また、中国および占領地で血なまぐさい犯罪を続ける中国を告発し、阻止するために活動するあらゆるN G Oとの連帯を表明した。

アリヤ代表は、中国における臓器狩りに関する発表を行ったデービッド・マタス氏と主催者に謝辞を述べるとともに、国民と占領地の人々に対して中国が犯し続けている血なまぐさい犯罪を非難した。続いて、拘束中のチベット人政治犯の死亡と失踪が増加するなか、中国当局が遺体の引き渡しを拒否していることはチベットでも臓器狩りが横行していることを明示していると述べた。

また、アリヤ代表は、ここ数年チベットで行われている大規模なD N Aデータ収集に関するヒューマン・ライツ・ウォッチの最近の報告について参加者に説明



中国による臓器狩りの公聴会の様子（写真：T H J）

した。報告によると、この収集活動はチベット人を草の根レベルで管理し、常に監視されているという恐怖を人々に植え付けることを目的としており、蓄積されたDNA情報は、適合基準に合致するドナー候補者を特定し、その人物を冤罪で拘束するために使用される恐れが高まっている。

日本ウイグル協会理事のハリマト・ローズ氏、世界南モンゴル会議議長のショブチョード・テムチルト氏は、中国による残虐行為や各地域で行われている血生臭い臓器狩りについて講演を行った。NPO法人日本法輪大法学会会長の稲垣兼太郎氏は、法輪功の会員が長年どのように苦しんできたか、また、習近平氏の在任期間に弾圧がさらに強まっていることを語り、習氏が三期目を確保したことでアジアと世界は今後、厳しく困難な時代を迎えることになるかと警鐘を鳴らした。

公聴会には、日本の国会議員、知識人、人権活動家、NGO、マスコミ関係者が参加した。アリヤ代表は国会議員やマスコミ関係者と交流し、チベットに関する書籍や情報を配布した。同行者は、ダライ・ラマ法王日本・東アジア代表部事務所のツェラ。

——ダライ・ラマ法王日本・東アジア代表部事務所による報告
(翻訳：Y.K)

アリヤ代表、日本外国特派員協会の記者会見に登壇

[2022年10月1日 スタッフ・リポーター]



パネリスト（左から右）：土井香苗氏（国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表）／ケルビスル・シディク氏（強制収容所の生還者）／ドルクン・エイサ氏（世界ウイグル会議総裁）／アリヤ氏（ダライ・ラマ法王日本・東アジア代表部事務所 代表）／オルホノド・ダイチン氏（南モンゴルクリルタイ常任副会長）

東京：9月30日、ダライ・ラマ法王日本・東アジア代表部事務所のアリヤ・ツェワン・ギャルポ代表は、日本外国特派員協会で行なわれた記者会見に出席し、中国政府の人権抑圧に対する抗議を訴えた。習近平政権下の中国は、占領地における弾圧と締め付けを強化しており、これらの地域の人々の独自のアイデンティティと文化を消滅させようとしている。その中で人権と信仰の自由が著しく侵害されていることから、これらの占領地域の人々は団結し、中国の残虐行為と中国に占領されている国々の独自のアイデンティティと文化を一掃する凶悪な政策を非難するよう、国際社会に訴える必要に迫られている。

記者会見は、日本ウイグル会議の主催で行なわれ、ウイグル、チベット、南モンゴルの代表者がパネリストとして参加した。メインスピーカーとして、アメリカから来日した「世界ウイグル会議」のドルクン・エイサ総裁と、オランダから来日した強制収容所の生還者・ケルビスル・シディク氏が登壇し、証言を行なった。

アリヤ代表は挨拶の中で、「チベット、東トルキスタン、南モンゴル」の問題は、単に人権や宗教的迫害の問題ではなく、隣国の残忍な行為による独立国家への侵略であることを強調し、世界の指導者たちに、この三国の問題を未解決の国

際問題として考えるよう促した。そして、かつて平和だったインド、ネパール、ブータンの国境が、中国によるチベットの占領後、いかに不安定になっているかを説明した。国際社会がこの問題に対して沈黙を続けていることが、今日のウクライナの侵略を生み、明日は台湾、尖閣諸島、沖縄、そして北方領土になるかもしれないと警告した。

ドルクン・エイサ氏は、ウイグルの危機的な状況や、強制収容所に収容された人々が今もなお苦しんでいる状況について述べた。最近発表された国連高等弁務官による報告書では、弱い表現が採用され、この地域で起こっている大量虐殺を記述するに止まっていることを嘆いた。新疆とは、ウイグル地域を示す中国語名で、歴史的に中国の一部ではないことを示す「新しい領土」を意味する、とエイサ氏は述べた。

ケルビヌル・シディク氏は、収容施設に教師として派遣されていたこと、強制収容所で拘束され苦しんだことを証言した。南モンゴルクリルタイ常任副会長オルホド・ダイチン氏は、中国共産党政権が南モンゴルを侵略し、どのように当該地域を中国化したかについて述べた。ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表の土井香苗氏は、世界の人権に対する日本の姿勢、視点及び支援について報告した。



記者会見に臨むアリヤ代表

パンオリエントニュースのカルドン・アザリ氏が司会を務め、質疑応答が行われた。記者会見終了後、アリヤ代表は会見中に交流した会員に書籍「チベット侵略中国共産党100の残虐行為」を配布した。会見には、各メディアから約30名の参加があった。ダライ・ラマ法王日本・東アジア代表部事務所のツェラ氏がアリヤ代表に同行した。

(翻訳：Naoko Watanabe)

中国：チベットでの大量DNA収集の新たな証拠

[2022年9月5日 スタッフ・リポーター]



青海省玉樹市ドリートエ県の住民からDNAサンプルを収集する警察。
(「扎河警察署がDNA血液サンプルの収集を実施」、治多県公安、微信、2021年9月10日)

(ニューヨーク) —ヒューマン・ライツ・ウォッチは本日、中国当局がチベット自治区の多くの町や村の住民から恣意的にDNAを収集するなど、取り締まりを大幅に強化している、と述べた。

ヒューマン・ライツ・ウォッチが入手した情報によると、警察はDNAの収集に犯罪行為の証拠を必要とせず、人々はDNAの提供を拒否することはできない状況にある。2022年4月のラサ市からの報告によると、DNA採取用の血液サンプルは、幼稚園の子供や他の地域住民から組織的に採取されている。2020年12月の青海省内のチベット人の郷からの報告によると、DNAは5歳以上のすべての少年から収集された。

ヒューマン・ライツ・ウォッチの中国担当ディレクター、ソフィー・リチャードソンは、「中国政府はすでにチベット人を広範な弾圧にさらしている」「現在、当局は監視能力を強化するために、同意もなく、文字通り血を搾り取っている」と述べた。

これらの大量DNA収集活動は、チベット高原の西部をカバーするチベット自治区の7つの県または市町村すべてで行われている様である。収集活動は、地域全体で警察の存在を草の根レベルで確立するための中国当局による継続的な取り組みの一環である。人々が参加を拒否できること、または警察がそのような収集

を正当化できる犯罪行為の有効な証拠を持っていることを示したという証拠はない。ヒューマン・ライツ・ウォッチが精査した報告書は、一時的な居住者を含むこれらの地域のすべての居住者からのDNA収集を意図していたことを示している。報告書のいずれも、居住者がサンプルの提供を拒否できる条件を示していない。

ヒューマン・ライツ・ウォッチは、この地域の7つの県レベルの地域にまたがる14の地域（1県、2郡、2町、2郷、7村）で地域全体でのDNA収集が行われている、または行われる予定であるとの報告を確認していると示した。中華人民共和国政府調達文書によると、2019年7月にチベット自治区警察が地域レベルのDNAデータベースを構築するために請負業者に入札を求めた。このことは、当局が地域全体の収集活動を準備していたことのさらなる証拠である。2019年11月、チベット自治区の県相当の行政単位である林芝市警察も、この地域のDNAデータベースの構築を発表した。（翻訳：Sakura Nakayama）

起業家で慈善家のチベット人に対し、 不当に懲役18年の刑を宣告

[2022年7月28日 スタッフ・リポーター]

ダラムサラ：信頼できる情報筋によれば、中国当局が、いわゆるチベット自治区（TAR）ナクチュ（中国名：那曲）市セニ（中国名：色尼）地区で「分離主義を扇動した」という捏造された容疑による罪で、テンジン・チョーペル氏に懲役18年の刑を宣告したという。チベット人起業家のチョーペル氏（45歳）は、その上、「違法に海外に機密情報を送信し」そして、「国家の安全を危険にさらす活動に資金供与した」として告訴されたとしている。

2018年3月30日に最初に逮捕されてからチョーペル氏は、2019年5月24日に懲役18年の固定刑と5年の政治的権利剥奪という公式判決が下されるまでの間、隔離拘禁されていた。情報筋によると、中国当局が、彼の私有財産をすべて没収した上で、現在、チベット自治区ラサ市のチュシュル（中国名：曲水）刑務所に拘禁しているという。

チョーペル氏に対するこうした公平性に欠ける判決に続いて、チベット自治区高級人民法院は、2019年10月、彼の家族による訴えを棄却している。

チベット人権民主センターによる以前の報告では、チョーペル氏は、中国四川



テンジン・チョーペル氏〔写真：チベット人権民主センター（TCHRD）〕

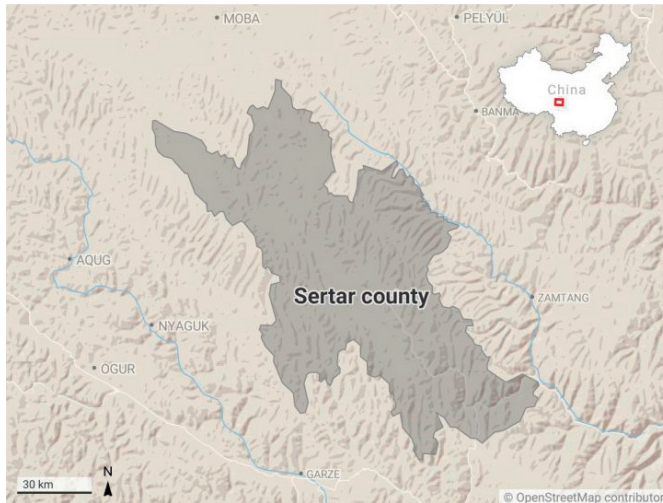
省成都市での出張を成功裏に終えた後、ラサ・ゴンカル国際空港で身柄を拘束されたとしている。チョーペル氏は、チベット文化や環境の保護を含む文化的活動や、チベット人の連帯感の促進、貧困、困窮者に対する支援など、多様な慈善事業に携わってきた。

チョーペル氏の投獄は、チベット人の環境や文化という財産を保護し、破壊的な開発プロジェクトに反対したチベット人に対する、止むことのない迫害のさらなる一つの事例である。さらに、こうした事例は、コミュニティの指導者、知識人、権利擁護者及び作家らを含む著名なチベット人を攻撃することで、中国共産党に対立する意見を粉砕するための中国による計算尽の取組みの一環である。

——国連、E U、人権デスク、チベット擁護セクション及び
中央チベット政権情報・国際関係省（DIIR）による報告
(翻訳：仁恕)

中国当局、公共の場で祈ったチベット人5人を拷問、 1人を死亡させた疑い

[2022年9月22日 スタッフ・リポーター]



サンギャル・クンチョク（RFA/ Radio Free Asiaチベット担当）

チベットの中国当局が、公共の場で香を焚いて祈ったとして、5人のチベット人を逮捕、拷問し、うち1人を死亡させたことが亡命中のチベット人2人からRFAに情報が入った。

8月24日、中国北西部四川省セルタ県（中国名：色達県）で、チュグダル氏、ゲロ氏、ツェド氏、バモ氏、コリ氏の5人のチベット人が、亡命中のチベットの精神指導者ダライ・ラマの長寿を祈り、香を焚いた。警察はその直後に彼らを逮捕したが、情報筋によると、そうした宗教活動はいかなる法律にも違反しておらず、RFAも、いかなる罪状も確認できていない。

ある亡命チベット人（安全上の理由から匿名とする）が、RFAチベット・サービスに語ったところによると、「逮捕されたチベット人は、その地域の地元のチベット人から宗教活動の指導者に任命されていた」とのこと。

情報筋によれば、「セルタ（色達）とゴロク（果洛）では、中国政府による宗教的締め付けが強まっており、チベット人は自宅前に祈りの旗を掲げることさえ許されておらず、また、サンソル（焼香の儀式）を行うことも認めていません。それが環境に有害であるからの理由です。」

チュグダル氏は、カンゼ（ガンズー / 甘孜）チベット自治州の刑務所で死亡し、

他の4人は同刑務所で拘留されたままであると、別の亡命チベット人（自由に話すために匿名希望）はRFAに語った。

「チュグダルは52歳でした。両親の中で彼は生きています。中国警察は、彼を拷問して死なせたことを否定し続けています。」と、別の情報源は証言している。

（翻訳：石田一規）

カム・カルゼで2人のチベット人が警察による拷問で死亡

[2022年9月30日 スタッフ・リポーター]



ゴドゥプ・ツェリン氏

ドラムサラ：亡命者のメディアが伝えるところによると、2022年9月28日、四川省に併合されているカム・カンゼ（甘孜）のダルツェンド（康定）で、高齢者施設を訪問し、食べ物差し入れたチベット人男性が中国警察に逮捕され、激しく殴打された末、翌日死亡した。

チベット・タイムズ紙の報道では、高齢者施設から帰宅したゴドゥプ・ツェリン氏は、9月27日の早朝、数人の警察官によって突然逮捕された。そして地元の警察署で何時間にもわたる殴打と尋問を受けた。

ゴドゥプ氏が高齢者施設を訪問し、食料品を差し入れたことは、警察の目には、高齢者の世話をする責任を負う政府職員に対する侮辱と映った。警察はゴドゥプ

氏を嘲り、政府職員が「規則正しく食事や日用品を高齢者に提供している」のだから、「部外者」の助けは必要ないと言った。そして、「不適切な表情を見せた」と非難され、さらに足腰が立たなくなるまで拷問された。翌朝、彼は警察署内で死亡した。

チベット・タイムズ紙の報道によると、ゴドゥプ氏の死後、遺体が家族に引き渡されたかどうかは不明である。ゴドゥプ・ツェリン氏はタクシー運転手で、78歳の母親ラキ、妻ユツォと2人の子どもを養っていた。

セルタで宗教儀式を行った5人のチベット人が逮捕され、うち1名が拷問死

2022年8月26日、カンゼ（甘孜）・チベット族自治州のセルタ（色達）県で、52歳のチュグダル氏が、中国警察に監禁されたまま死亡した。宗教儀式を行ったとして拷問を受けた結果であるとチベット・タイムズ紙は伝えている。中央チベット政権（CTA）の公安省もこの情報を確認した。

共に逮捕されたゲロ氏、ツェド氏、バモ氏、そしてコリ氏も、カンゼ・チベット族自治州の刑務所に収容された。5人のチベット人は、宗教儀式を執り行い、香を焚き（サンソル）、マニ石を積み、公の場で祈りを捧げたために、8月24日に逮捕されたという。その広い心と責任感、誠実さから、彼らは地元では「高貴なる5人組」と呼ばれ、チベット人らに請われて、しばしば街の宗教活動や祈祷会の先導役を務めていたと報道されている。

また、2022年8月25日に、逮捕者の家族は面会を拒絶され、食糧の差し入れも許されなかったという。8月26日、チュグダル氏の家族は、彼が刑務所内で死亡したので遺体を引き取りに来るようにと命じられた。そして、「彼の死は警察による虐待が原因ではないことを確認する公式な書類に家族が署名したら遺体を返す」と告げられた。当局は「突然死」だったと言っているが、家族は、彼は健康そのものだったと主張している。

情報筋がチベット・タイムズ紙に伝えたところによると、「セルタ県警察は、遺族に賠償金100,000元（約14,113米ドル）に加え、家族一人につき毎年10,000元を支払うことを保証した」という。「しかし、この賠償金は未だ支払われていないことから、これは遺族を懐柔して、遺体を刑務所から引き取らせるための、単なる空約束に過ぎない」と情報筋は説明している。

——国連、EU、および人権デスク、チベット擁護セクション（DIIR）による報告
（翻訳：麻雪）

『根本中論頌』法話会 2日目

[2022年11月26日 インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ]



ツクラカンで行われた法話会の2日目に、堂内に座した韓国の僧侶、尼僧、在家信者に説法をされる
ダライ・ラマ法王。2022年11月26日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ
(撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁)

今朝、ダライ・ラマ法王は法座に着かれると、法話会場の最前列から堂内いっばいに並んで座している韓国の僧侶、尼僧、在家信者の聴衆に向けて次のように話し始められた。

「親愛なる韓国の兄弟姉妹の皆さん、皆さんは、戦争と政治的緊張の最中にあっても仏教への信心を失わず、実践を続けておられます。北朝鮮は武器の使用に依存し、それは深刻な脅威となっていますが、私たち全員が責任を負い、朝鮮半島に平和をもたらす努力をしなければなりません。どうか、北朝鮮との対立を解消するために最善を尽くしてください」

「仏教は一切有情を配慮した広い視野を持っていて、その観点に基づいてこそ世界平和の実現が可能です。心の平和に根ざした世界平和の構築が必要なのです。釈尊は心の働きについて大変詳しく説かれ、怒り、貪り、嫉妬などの感情の噴出によって、私たちの心はかき乱されていると説明されました。このような煩悩に対抗する簡単な方法は、良き心を培うことです」



韓国グループのリクエストによる法話会の2日目に、法話会に参列する韓国の僧侶と尼僧たち。

2022年11月26日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ

(撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁)

「今朝は仏陀の法を概説し、一緒に瞑想したいと思います。始めに分析的瞑想、次いで一点集中の瞑想を行います。最初は大日如来の七つの点を含めた姿勢で座るといいでしょう。脚を組み、手のひらを上にし、左手の上に右手を乗せて禅定印を結びます。背筋を伸ばし、肩を左右平衡に保ち、顎を少し引きます。舌を上口の口蓋に付け、鼻先を見るようにして目をわずかに開けます」

「どの伝統的宗教にも良き徳性があり、私は全ての宗教に敬意を表しています。しかし、仏教や、その他の古代インドの伝統的宗教では、瞑想を修行の重要な要素としています。私たちは瞑想によって、ゆったりとした心の状態を維持することができるのです」

「まずは心を中立な状態に保ちます。そして、菩提心生起や空性の洞察などによって心を前向きな状態にします。他のインドの伝統では、独立した自我（アートマン）が存在すると仮定していますが、釈尊はそのような、体と心とは別の独立した自我の存在を否定されました。私たちは『この自我、つまり“私”はどこにいるのか？』と問わなければなりません。そしてこの質問に答える時、『心と体は誰のものなのか？』と言葉にします。『私のものだ』と答えるなら、『心と体を所有している自我、または“私”はどこにいるのか？』と自問しなければなりません。しかし、脳や体のどの部分を探しても“私”を見つけることはできず、その状態にとどまって瞑想します」

「私たちは夢の中でさえ、`私、という感覚を持っていますが、そのような自我を見つけたり、特定したりすることはできないのです。仏教のすべての宗派は無我を主張していますが、これは`私、が全く存在しないことを意味するのではありません。実際に世俗のレベルでは、私の手、私の頭などについて話しています。`私、は個別の独立した存在のように現れていますが、しかし`自我、として指をさして特定されるようなものは何もないのです」

「無我の見解には粗いレベルと微細なレベルがあり、その段階によって定義が異なります。釈尊はまず粗いレベルの無我を説かれ、次に微細なレベルの無我について説明されました。そして最終的に、密教の修行の土台となる光明の心について明らかにされました」

「体がその各部分に依拠して体と呼ばれるように、`私、または自我は、心と体の集合体として`私、と呼ばれています。意識が`自我、または個人として特定されると主張する哲学学派もありますが、心と体がなければ、仏陀のことさえ、仏陀とは特定できないのです」

「僧伽についても同じです。指をさして`これが僧伽だ、と言えるものは何もありませんが、では僧伽が存在しないのか？ と言えば、そうではなく、僧伽は単に名前を付けられたことによるのみ存在しているのです。

僧伽という名前を与えられた何かがありますが、それを超えて実在するものは何もあります。仏陀から最も小さな昆虫に至るまで、世俗の感覚で感じる`私、は確かに存在していますが、それを分析してみるならば、そこに見出されるものは何もあります。そのことに集中して瞑想します」

法王は、毎日省察されている、チャンドラキールティ（月称）の『入中論』第6章の3つの偈頌を引用された。[ここでは、『中観密意^{みっち}解明』（ツォンカパ大師の『入中論』の注釈書）から、これらの偈頌の議論の要約を引用する]

- もし、自相が〔自性によって成立する因や条件に〕依存して生じるならば
- 自性〔による成立〕はないと考えることによって事物は消滅するため
- 空性が事物の消滅の因になる
- しかしそれは論理に反するので、事物は存在しない（『入中論』第6章34偈）

もし、色（物質的存在）や受（感受作用）といった事物の固有の相（特徴）が、それ自身の自性を通して、因や条件に依存して生成するならば、「一切の現象には固有の実体がなく、空である」と直接知覚する聖者の瑜伽行者は、事物が持つ固有の自性を否定することで空性を悟ることになってしまう。

瑜伽行者は等引（禪定に入った状態）において実際に色などを認識することはないが、もし色などが固有の相（特徴）をもって存在するならば、それらは必ず認識されるはずである。しかし、認識されることはない。

認識されないということは、色などは存在しなくなるということであり、もし存在しなくなるのであれば、等引に入る前は存在していたものが、等引に入ると破壊されたり、消滅したりするということになり、等引はそれらを破壊する原因だということになる。つまり、ハンマーなどが水瓶などを破壊する原因であるように、空性を直接体験することも、事物の本質を破壊する原因であり、そのようにして色などが消滅することになる。しかし、これは論理に反するので、固有の相（特徴）の力によって、独立して実在する事物など存在しない。そうであるから、固有の生成のような概念を決して支持してはならない。

- これらの事物を分析してみるならば
- 真如を本質として持つ事物以外に
- とどまる所を見出すことはできない
- ゆえに、世間において言葉で述べられた真理（世俗諦）を分析するべきではない（同35偈）

色や受などの現象を「それ自体から生じるのか、他から生じるのか」などと言って徹底的に分析したところで、究極のレベル（勝義諦）においては生じもしないし、滅じもしない、という事実を超えて、真如を本質とするということ以外に、何も見出すことはできない。生成などという別の次元はないのである。

そうであるから、世間における世俗の真理（世俗諦）を、「それ自体から、他から」などという言葉を使って徹底的に分析するべきではない。

「これがあれば、こうなる」というような言葉でとらえられている、世間的な認識の事実を、ただ受け入れればいいのである。

この世界における、他のものに依存して生起する慣習を共有することに基づいて、そのように受け入れるべきである。



法話会の2日目に、参加者に説法をされるダライ・ラマ法王。
2022年11月26日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ
(撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁)



法話会が終了し、聴衆に挨拶しながら会場を後にされるダライ・ラマ法王。
2022年11月26日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ
(撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁)



長寿祈願法要に出席するため、ツクラカン本堂に徒歩で向かわれるダライ・ラマ法王。
2022年11月30日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ
(撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁)



ツクラカンで行われた長寿祈願法要で、ダライ・ラマ法王に供物を捧げるガンデン僧院座主。
2022年11月30日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ
(撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁)

- 真如について述べる時
- それ自体から、あるいは他から生じることは論理的に正しくない
- それは世間の言説においても論理的に正しくない
- あなたの言う生成とはどうやって存在することになるのか（同36偈）

真如、あるいは究極の真理（勝義諦）の分析という文脈において、先に示した特定の論法は、色などの現象が、それ自体から、あるいは他から生成するとは認めない。同様に、世俗のレベルにおいても、同じ論法により、固有の相（特徴）による色などの生成は認められない。そうであるなら、どのような正しい認識（量）によって、あなたの言う固有の生成が確立されるというのか。固有の生成などないのである。

そして法王は次のように述べられた。

「今日を生きる80億の人間は、幸せを望んでいるという点において皆同じです。私たちもそのような人類の一部です。しかし、人々は苦しみを望まないにも関わらず、苦しみの原因になる事柄を追い求め、自他の破滅を招いています。自分はたった一人に過ぎず、他者は無数にいることを考えてください。彼らが苦しませないように、彼らが幸せになりますように、と考えて、他者に喜びをもたらそう、と決意してください」

続いて法王は、会場からのいくつかの質問に応じられた。最初の質問はソーシャルワーカーについてのもので、法王は、ソーシャルワーカーが他者のために奉仕する時、あたたかい心を育むことが重要であり、そうすることで自分の身体の疲弊を防ぐことができると示唆された。また、精神的な修行者と称する人が、その志と矛盾するような行動をとるのは何が問題なのか、との質問に対して法王は、その人は道徳的な行動と非道徳的な行動を混同しているのだと指摘された。最後に、なぜ有情に意識が生じたのか、という質問がなされ、法王は、意識は仏陀が作られたものでもなく、カルマの産物でもないことを明らかにされ、意識の本質は、明らかで、知ることができることだ、と述べられた。

ここで法王は、ナーガールジュナ（龍樹）の『根本中論頌』のテキストを取り上げ、ナーガールジュナは第二の仏陀として知られており、深遠なる智慧の教えの系譜の創始者とも言われていると説明された。そして法王は、このテキストの解説の伝授を、元ガンデン僧院座主のリゾン・リンポチェから授かっていると述

べられ、当時、金剛怖畏のリトリート中であったリゾン・リンポチェは、リトリート修行のセッションの合間にこの伝授を行われたと明かされた。そして法王はこのテキストの最初の13章を読み上げられた。

次に法王は、菩提心を育むための2つの修行法について触れられた。ひとつは、因と果の七つの教え、に基づく方法であり、もうひとつはシャーンティデーヴァ（寂天）が『入菩薩行論』で述べられている、自他を平等にみなし、自他を入れ替えて考える、方法である。法王は、この二つのうちで、後者がより効果的であると感じている、と明かされた。法王は、ご自身が、毎日、菩提心と空性の見解を育んでいることを繰り返し、この二つの原理を修行の土台とするように聴衆に呼びかけられた。

続いて法王は、まず観想方法を説明してから、発心の偈頌を唱えることで参加者を菩提心生起の儀式に導かれた。そして法王は、揺るぎない決意を持って修行に臨み、六波羅蜜の実践を修行の支えとするように聴衆を励まされた。

法王は、「自信を失ってははいけません。菩提心と空性の理解を結び合わせて修行するならば、仏陀の境地を得ることはただの祈願ではなく、現実的な可能性となるでしょう」と述べられ、法話会を終えられた。

ダライ・ラマ法王庁のHPより

チベットハウス・ジャパン、2ヶ月間のチベット語講座を終了

[2022年11月28日 スタッフ・リポーター]



受講生に講義をするアリヤ代表

東京：チベットハウス・ジャパンは、2ヶ月間のチベット語とチベット文化に関する講座を本日終了した。本講座は、毎週土曜日に、対面式のみならずオンラインでも行われた。2ヶ月間にわたって行われた本講座は、チベットハウス・ジャパン事務局が主催して毎年行われる恒例のイベントであり、日本人や留学生が、チベット語とチベットの歴史・文化の一側面を学ぶことができる。受講生は、基本的なチベット語による会話、読み方や書き方についても紹介された。

代表のアリヤ・ツェワン・ギャルボ博士は、チベット言語に関心を抱いてくれた受講生に感謝すると共に、チベットの文化やスピリチュアルな叡智について理解するためにも、チベット語を学び続けるよう受講生に助言した。出席率が8割以上の受講生には、修了証明書が授与される。受講生は、本講座について満足の意を表すと共にチベット語を学んだ経験について共有した。

簡単な修了式が行われ、アリヤ代表が、本講座を無事に終了した受講生を祝福した。事務局で催された修了式に出席した受講生には、チベットのスカーフ（カター）が贈呈された。島根県や栃木県などの遠方から修了式に出席し、喜びや感謝の意を伝えてくれた受講生も見られた。

本講座と修了式は、各自治体によって規定された新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種規制に従って、最小限の人数で行われ、対面による物理的な接触も最小限だった。

2ヶ月間のチベット語講座は、タシ・ヤンゾム氏とツェラ氏が指導し、チベットハウス・ジャパンの長谷川氏が補助した。修了式は、チベットハウス・ジャパン事務局のスタッフとその家族が準備したチベットのバター茶、チベットの麺料理（トゥクパ・テントック）及び肉入りチベットパン（シャパレ）を分かちあって締めくくられた。

（翻訳：仁恕）



本講座修了式での集合写真



チベット支援とご寄付について

平素より、チベット亡命政権、ならびにダライ・ラマ法王日本代表部事務所（NPO法人チベットハウス・ジャパン）の活動に深いご理解と温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。

皆様のご支援は、ダライ・ラマ法王の目指す世界平和と、慈悲のこころに満ちた社会を実現するための大きな力となっております。

チベットは困難な状況が続いておりますが、私たちは平和と自由のための非暴力闘争を続けてまいります。

今後も、皆様の継続的なご支援とご指導をお願い申し上げます。

ご支援の方法については、HP（<https://www.tibethouse.jp/support/>）をご覧ください。

ご寄付に関しましては、下記の銀行口座にて受け付けております。

領収書を希望される方は、Eメール、お電話、お手紙などでご一報ください。

お振込先：

ゆうちょ銀行 郵便振替口座

口座記号番号：00100-1-89768

加入者名：チベットハウス

三菱UFJ銀行

支店名：新宿通支店（店番：050）

口座種別：普通

口座番号：2999213

口座名義：特定非営利活動法人チベットハウス・ジャパン

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所（チベットハウス・ジャパン）は
ダライ・ラマ法王及びチベット亡命政権の日本唯一の公的機関です。

チベットハウス会員制度／会員募集のご案内

会員特典

チベットハウスにご入会いただくと、さまざまな特典をご利用いただけます。

- 会員向け季刊誌「チベット通信」の無料定期配布（年4回予定）
- ダライ・ラマ法王来日情報等のご案内
- ダライ・ラマ法王来日講演のご優待
- 弊事務所主催の各種イベントの割引（1割から2割）
- 弊事務所チベット図書室の貸出サービス

会費について

入会費：3,000円／年会費：5,000円（※毎年4月に更新手続きをして頂きます。）
初年度合計：8,000円

ご入会方法：チベットハウス入会ご希望の方は、ゆうちょ銀行「郵便振替用紙」の通信欄に「チベットハウス入会希望」とご記入のうえ、お名前／フリガナ（フリガナは必須です）／ご住所／電話番号／メールアドレス を明記していただき、入会費及び年会費合計の8,000円をお振込ください。

お振込先

ゆうちょ銀行 郵便振替口座

口座記号番号：00100-1-89768

加入者名：チベットハウス

※尚、銀行振込でのご入会は扱っておりませんので、ご了承ください。

チベットハウス会員更新方法

チベットハウス更新ご希望の方は、郵便振替用紙の通信欄に「チベットハウス更新希望」とご記入のうえ、年会費の5,000円をお振込ください。

☆今後、会員の皆様限定のオンラインイベント等の企画を考えております。会員の皆様のEメールアドレスをご連絡頂けると幸いです。

お問合せ

電話：03-5988-3576 FAX：03-3565-1360

Email：tibethouse.jp@tibet.net

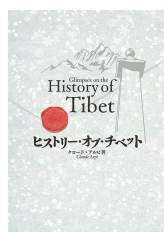
チベット関連書籍 Books on Tibet



新刊 ダライ・ラマ法王14世金言集 心の智慧

販売価格：1,000円

ダライ・ラマ法王の愛、慈悲、思いやり、平和のメッセージから代表的な113言を法王庁の快諾のもと、チベットハウス・ジャパンより金言集として刊行しました。より多くの方々が法王の言葉を通じて心の平和を見いだされることを願っております。



ヒストリー・オブ・チベット History of Tibet

クロード・アルピ著 (Claude Arpi) 販売価格：1,000円

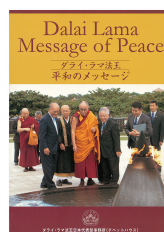
著者のクロード・アルピ氏によるチベット史の歴史をもとに作られた本書「Glimpses on the History of Tibet」は、絵や写真を通じて世界で最も高い場所の始祖神話から近代以降の苦闘までのチベットの多彩な文化、政治、宗教をまるで旅するかのよう体験できる本です。



希望 チベット亡命50年 Tibet Exile 50

販売価格：1,000円

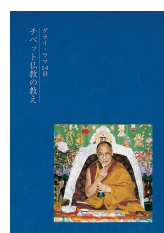
ダライ・ラマ法王台湾事務所によって発行された本の邦訳版。中国によるチベット占領、ダライ・ラマ法王の亡命、そしてインドでの中央チベット政権再建から、2009年で50年という月日が経過した。その50年間の記録を、オールカラー写真とわかりやすい解説を通じて紹介。



ダライ・ラマ 平和のメッセージ

販売価格：1,000円

ダライ・ラマ法王の世界平和や地球環境問題に関する思想や見解を掲載。「思いやりと個人」、ノーベル平和賞受賞のスピーチや講演、「普遍的責任と環境」等、ダライ・ラマ法王の非暴力の精神を理解するための鍵となる内容。



ダライ・ラマ14世 チベット仏教の教え

販売価格：1,000円

1995年のダライ・ラマ法王来日における法話集。仏教一般、特にチベット仏教の基本的な教理と実践の他、「人類の未来と人間の心」、「日本の人々へのメッセージ」を掲載。



チベット語と日本語 英会話の本

アリヤ・ツェワン・ギャルボ著 販売価格：1,000円

チベット語と日本語を学びたい人々にとって、非常に簡潔で使いやすい会話の手引書になっています。著者が自らの経験をもとにして、日常会話の中で頻繁に使う言葉や語句を中心に書いた本です。

お問合せ：電話 03-5988-3576 / FAX 03-3565-1360 / Email tibethouse.jp@tibet.net